



★ 今年度の外来診療日について ★

【 勤労感謝の日:11月23日(木) 】

通常診療日とします。

(1) 医師から皆様へ く 肺がん治療研究の今・2017年 く

肺がんが我が国の悪性腫瘍による死亡原因の第1位になり20年近くが経過しましたが、いまだに増加傾向があり、我々日本人の脅威となっています。身近な人や有名人も肺がんにかかれて話題になる機会も多くなったように思います。今回は、肺がんに対する治療でどのような研究が行われているか代表的なものをご紹介します。

【早期肺がんに対する研究】

現在、早期肺がんという考え方があり、手術による切除によってほぼ100%治ってしまうものがあります。早期肺がんは、レントゲンでは見つからないような小さな肺がんが高精度なCTによって発見されたものです。その大きさは2センチ以下とされていますが、画像の大きさだけで全てが当てはまる訳ではありません。そこで大きさ以外にCTの見え方で早期肺がんであることを予測する研究が行われています。また、現在、標準的な肺がん手術で切り取る肺の体積を早期肺がんではもっと小さくできないかという研究も行われています。結果は東京オリンピックの年に発表される予定になっています。



【進行肺がんに対する研究】

我が国における肺がん患者さんが初めて医療機関を受診したときに、どこまで肺がんが進行しているかの割合を示す正確なデータは存在しません。極めて

限られた施設からのアンケート調査ではありますが、患者さんの60-70%はその時点で、手術ができないくらい進行していた結果もあり、実際は進んだ状態で見つかる肺がんが多いのです。

手術の対象とならない肺がんに対する治療は、抗腫瘍薬(抗がん剤)が中心となり、どのような薬をどこで用いると効果があるか、というのが研究の中心となります。肺がん領域の抗腫瘍薬は、細胞毒性抗腫瘍薬というものが主流でし



たが、現在は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など今までに無いタイプの薬剤を使用することもあります。

これらの薬は、がんのもつ特徴によって効果がある程度予測できるものが多く、これらの特徴をバイオマーカーと言います。現在、検査が保険で認められているバイオマーカーはEGFR 遺伝子変異、ALK 遺伝子変異、PD-L1 抗原、ROS1

遺伝子変異の4つで、対応する薬剤が9つ出ていますが、今後増えることが予定されています。このようにそれぞれの肺がんに対してそれぞれの治療を行うという、テーラーメイド治療の研究が、主な進行がんの研究になります。

外科 呼吸器担当部長 奥田 昌也

(2) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題 : 冬の感染症対策
~手洗いやマスクの正しいつけ方も学びましょう~
- ・講 師 : 感染管理専従看護師長 西 真由美
- ・日 時 : 9月26日(火) 14:00~15:30
- ・場 所 : 南甲子園公民館(Tel.49-4741) ※無料(参加自由)



(3) 職員・パート募集のお知らせ

職員・パートの方を募集しています。一緒に明和病院で働きますか? 詳細はホームページをご覧ください。人事企画課(代表0798-47-1767)までお電話にてお問合せください。



- ◆職 員: 薬剤師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士
- ◆パート: 歯科衛生士、ケアマネジャー